八の字づくし

古川緑波

青空文庫

名古屋ってとこ、戦前から戦争中にかけて、僕は好きじゃなかった。名古屋へ芝居で来る度に、ああまた名古屋か、と、くさったものだ。というのは、食いものが、何うにも面白くなかった。

一口に言えば、名古屋ってとこ、粗食の都だったんじゃないか。それが、戦後は、変りましたね、食いもの屋の多いこと、贅沢になったこと、驚くべし。

だから、戦後は、名古屋行きは、苦にならない。

まず、宿へ着いたら、八丁味噌の汁を、ふんだんに、と、たのむ。それも、身は、他のものでは、いけない。里芋に限る。それも、東京式に、小さな里芋を、まるごと入れたんでは駄目、短冊（？）に切った奴。朝食には、その八丁味噌汁の三杯汁だ。

それに名古屋で嬉しいのは、抹茶が何処でも飲めること。大抵の宿屋で、すぐ作って呉れるから、これも三杯汁の式で、毎朝、何服と行く。

名物のういろうが、お茶に合います。納屋橋まんじゅうも結構だ。

併し、これらの味は、戦前から、あったもの。戦後に、名古屋が食い倒れの都と化した、その一番先きは、洋食じゃないだろうか。

僕が脂っ濃いもの好きで、淡(あつさ)りした日本料理を解さないせいかも知れないが、洋食店が、殖えたことは、名古屋の変化の、一つの大きな現象だろう。

戦前、名古屋で、洋食と言ったら、老舗の中央亭、朝日ビルのアラスカ、観光ホテル、ぐらいのものではなかったか。

そりゃあ、名古屋にだって、得月とか、何とか、上等の、うまいもの屋は、あった。けど、そいつは、脂の好きな僕には、縁がなく、せいぜい、加茂女の豚の角煮ぐらいしか覚えていない。

それが、戦後の名古屋の洋食は、ワアッとひらけた。

町名を忘れたが、今松というグリルが、戦後の洋食の草分けではないのか。これが、松阪屋裏の、バンガローとなって、こくのあるフランス料理を食わしたもんだが、今松もなくなり、バンガローは、喫茶店になったとかきいたが。

八雲って店も、「先生」と呼ばれる、老チーフが、科学実験してるみたいな顔で、眼の前で料理するのが、たのしかった。

八千代の、ビフテキも、結構である。東京へ出したって、立派だ。

八百文という店を御存知か？

名宝前の小さな、古風な洋食屋だが、ここのタンシチュウは、実にいい。量も、たっぷりで、昔流の味だが、うまくて、安い。僕は、名古屋へ行く度に、必ず食っている。

と書いていて、今、僕の列記した店の名前が、みんな、八の字が附いていることに気がついた。八雲、八千代、八百文。

もう一つ、八の字を追加すれば、天ぷらの八重垣だろう。これは、洋食じゃあないが。

これも町名不詳。最近八重垣へ行ったら、おかみさんが、「高い天ぷら食べて下さいますか」と言った。僕が曾(かつ)て此の店のことを、何かの雑誌に、天ぷらは、うまいが、高い高いと、もっとも、それは戦争はるか以前のことなんだが、そう書いたのを、読んだらしい。

その頃は、全く高かったんです。

では、今は如何というと、今は、うまくって、お値段も安い。そう書けば、おかみさん、文句ないだろう?

青空文庫情報

底本：「ロッパの悲食記」ちくま文庫、筑摩書房
1995（平成7）年8月24日第1刷発行
2007（平成19）年9月5日第3刷発行
入力：門田裕志
校正：仙酔ゑびす
2011年12月1日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

八の字づくし

古川緑波

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/